

### 第3回 「高校生のための学びの基礎診断」に関する有識者会議について

2021年3月1日に「高校生のための学びの基礎診断」に関する有識者会議が開催された。10:00から12:00までの予定で、文部科学省13F3会議室で行われた。コロナウイルス感染拡大防止で傍聴者は認められず、WebexによるWEB会議方式で行われた。今回は前川委員が欠席であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 現在の取組み状況について
2. その他

まず、事務局より資料1に基づいて、認定事業者のヒアリング結果の報告について説明があった。認定後に事業者に求められている事業概要報告をまとめたものであり、9社（学研教育みらい、日本数学検定協会、Z会ソリューションズ、リクルートマーケティングパートナーズ、ベネッセコーポレーション、ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構、教育測定研究所、日本漢字能力検定協会）それぞれについて報告がなされた。

審査にあたった岡本氏のコメントは次のようなものであった。「英語のスピーキングについて、ニーズがないという事業者もあり、現場でもいまだに知識・技能を重視している傾向がある。PDCAサイクルを回すという基礎診断の趣旨が十分に浸透していないと思われる。効果的な取組事例の周知が必要である。」

これに関する委員の質疑応答の概要は以下の通りである。

藤森委員：Z会の「アダプティブ・ラーニングサービス」とはどのようなものか。

→（事務局）調査して後日報告する。

宇佐美委員：試験の検証内容としてやっていることが事業者によりまちまちである。统一的に項目分析などをお願いすることを検討してもよいのではないか。逆に、数十人しか受検者のいない試験にIRTを要求するのは性急だと思う。

→（岡本氏）会社の規模なども異なるので、統一することは難しい。好事例などを発信することでよくなるのではないかと思う。

→（事務局）報告事項を記す様式に記入例を示すことで試験後の検証内容を例示しているが、事業者によってでこぼこがある。

竹内委員：英語のスピーキングについて、ニーズがないといって前に進まない可能性がある。このまま終わってしまうのではないかと危惧する。

田村委員：スピーキングのニーズが低いことの理由として、学校で既に他の手法によって測れているから必要ないというケースも考えられる。必ずしも基礎診断で測る必要はな

く、積極的に推すことには違和感がある。何故ニーズがないのかを知りたい。

→（荒瀬委員）実態の調査が必要だと考える。

岡本氏：業者が実施するアンケートにはバイアスがかかっている。何が必要なのか基本的に立ち戻って考えるべき。

清水委員：いろいろなオプションがあった方がよい。それぞれのツールについて CBT や IRT などの長いスパンの改善だけでなく、新指導要領への対応などの改善の仕組みが必要。

藤森委員：授業改善の PDCA サイクルが目的であるのに、個別の到達度診断に使われている。学校自体が診断されているというコンサルタントとしてのテストを色濃く出すべき。好事例の情報が共有できるよう今後もっと検討すべき。

長塚委員：従来、模擬試験として使っていた業者テストの看板を変えただけの実態となっており、現場の意識の改善がまだ見えない。スタートラインについたばかりなのではないか。

中村委員：教育委員会の立場としていうと、ここ最近では急速に ICT 化が進み状況が変わっている。CBT 化などもっと業者に取り組んでほしい。県全体で同じものに取り組むことによって、合同分析会を開催しノウハウを共有できたことが成果であるが、まだ課題の共有レベルである。今後もっとレベルアップしていきたい。そもそもなぜ学ぶのかという学びの必要性が伝わらなければ主体的な学びにはつながらない。

田村委員：業者の方が現場の本音を聞いているのではないか。今はニーズがなくても開発を続けてほしい。業者・学校の双方にメリットがあるだろう。

萩原委員：総合学力テストはかなりの人数が受検しているが、基礎診断として受けているかどうかはわからない。全国平均・県内平均との比較はしているものの、まだ始まったばかりで十分な形ではない。また、スピーキングについても徐々に校内実施が始まっているが、標準化が課題である。

長塚委員：結果提供のあり方には事業者も苦労している。集団準拠より目標準拠への移行はなかなか難しいが、いかに開発するかが事業者の力の見せどころ。地歴・公民、理科のツールも検討事項となっている。高校生のレベルを測るだけでなく、意欲を引き出すようなものにできないか。

荒瀬委員：高校でもスクールポリシーを設定していくという方向になってきている。振り返って測定するツールになっていく。広報をしっかりとっていく必要がある。

清水委員：参考資料 1 にある「基礎診断の活用方法」についてアップデートしていく必要があるのではないか。好事例を集めていくことが必要。

次回の第 4 回会議は 3 月 19 日（金）に開催予定で、あと 2 回開催されることが決まっている。今回の意見を踏まえて今後の取組や認定基準の改訂などを審議していきたいとのことであった。会議は予定より早く 11:30 頃に終了となった。